

研究・調査報告書

報告書番号	担当
192	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Independent and interactive associations of prenatal mood and substance use with infant birth outcomes. 出生前心的状態と薬物使用の独立のおよび相互的な新生児出生結果に及ぼす影響	
執筆者	
Gyllstrom ME, Hellerstedt WL, McGovern PM	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Matern Child Health J. 2011 Feb;15(2):198-204	
キーワード	
出生前低心的状態、飲酒、喫煙、早産、低体重出産、MN PRAMS	
要旨	
目的： 本研究の目的は出生前低心的状態、飲酒および喫煙と早産、低体重出産の関連について2002～2006年にミネソタ州在住の女性を対象に検討した。	
方法： 全米における出産後女性の横断研究、妊娠リスク調査システムのミネソタ州版(MN PRAMS)を用いて検討した。	
結果： 2002～2006年に調査した11,891人の経産婦のうち7,457人からデータが得られ、加重平均回答率は76%だった。主要評価項目は低体重出産、早産、母親の妊娠中の心的状態、出生前飲酒、喫煙、および心的状態と薬物使用の相互作用である。妊娠中に低心的状態で喫煙していた場合、心的状態に問題がなく喫煙していなかった女性に比べて低体重出産が2倍となった(調整オッズ比= 2.12, 95%信頼区間: 1.35, 3.33, P = 0.001)。妊娠中禁酒をしていて低心的状態であった女性の早産リスクは心的状態に問題の無かった女性に比べて高かった(調整オッズ比= 1.95, 95%信頼区間: 1.54-2.45, P < 0.0001)。母親の低心的状態はMN PRAMS参加・回答者の中では早産および低体重出産のリスクとなる。	
結論： 薬物使用と出生前低心的状態は共存し、早産と低体重出産に対して相乗作用があるためさらなる研究を必要とする。	